

Learning Has No Border.

～学びに垣根はいらない～

京都市立岩倉北小学校

岩倉北小学校のチーム（学年・学年部）担任制について

1 チーム（学年・学年部）担任制 ※以下、「チーム担任制とします」について

（1）岩倉北小のチーム担任制とはどのような制度ですか

従来の学級担任制は、一人の担任教員が1年間を通じて固定的に学級を担当するのに対し、チーム担任制は、固定的な学級担任を置かず、複数の教員が学年（学年部）全体を担当する制度のことです。児童は、複数の担任教員に見守られることとなります。

さらに、岩倉北小では、学級指導の要として学級担当を設置し、学級担任制のメリッ
トも継続できるようにします。また、児童においても学級や学年の垣根を設定しない、
学年（学年部）を1つの学級（チーム）としてとらえた学習活動や体験活動を積極的に
行います。

（2）学級担任と学級担当との違いは何ですか

従来の学級担任制は、学級の担当を固定し学習指導も生活指導も、また、児童や保護者とのつながりも学級（学級担任）を基本としたシステムです。学級担当とは、児童の学級グループに関する担当であり、学習指導・生活指導、また、児童や保護者とのつながりについては、学級担当を要として複数のチーム担任が関わることができるようにするものです。また、チーム担任制では、朝の会・給食・掃除・帰りの会等もチーム担任間で相互に児童と関わります。

（3）交換授業と教科担任制の違いは何ですか

交換授業とは、学級担当が教科や単元によって入れ替わるものです。教科担任制とは、教科の担当を決め、通年で学習指導と評価を行うものです。

（4）岩倉北小のチーム担任制での、指導体制はどのようなものですか

岩倉北小のチーム担任制では、全学年で年度当初は学級担当が中心となり学級集団づくりを行います。

高学年では、学級開き・学年開き・学年部開きや教科担任制の準備期間を経て、教科担任制の実施と合わせてチーム担任制を始動します。朝の会から、教科担任等に合わせ学級担当が相互に各学級に入るようにします。授業においても教科担任制を実施するため指導者の入れ替わりが多いので、高学年担任全員が全学級にチーム担任として関わるイメージをもっています。また、学年や学級ごとの集団の高まりをつくるために学級担当がより積極的に担当学級や担当学年に関わることも大切であると考えています。チーム担任制と従来の学級担任制の両方の良さを生かした指導体制をすすめていきます。

低・中学年のチーム担任制については、学級担当を要とし、学校行事等を中心にそれぞれの学期に交代期間（期間限定）を設定し、一週間単位で学級担当が交代することを基本とします。

これは、交代期間中にチーム担任（その週の学級担当）が、各学級児童の変化に気付いて適切な声かけをしたり、継続した関わりをすすめたりするため、また、児童とチーム担任との関係性を高めるには、一週間単位での交代が有効であると考えからです。

なお、交代期間中の低・中学年の学級担当については、学習予定表を通してお伝えいたします。

2 なぜチーム担任制を導入するのか

(1) 岩倉北小学校のチーム担任制の5つのメリット

次の5点をメリットとしてとらえ、チーム担任制を導入いたします。

①チーム担任制では、一人一人の児童の個性をチーム担任団で見取り、多面的に個性の伸長をはかることができます。児童は、授業以外の場面でも様々な個性を発揮します。固定的な学級担任制では気づくことが難しいことも、チーム担任団で多面的・多角的にその様子を見取り、よりきめ細やかな指導を行うことをめざします。

②チーム担任制では、担任一人一人が、児童一人一人を自分の担任児童として、気付いたことや成長した様子を見取り、チーム担任団で共有することで、チーム担任団から児童への声かけが増え、児童も安心して過ごすことができるようになります。このことは、従来型の学級担任制の課題であった、学級担任の指導に対して、担任以外の教員が気付いても積極的に児童と関わることをためらったり、学級担任の指導について意見をしたりすることが難しい場面において積極的な解決をはかることでできると考えています。チーム担任制では、児童理解や指導に関するチーム担任間のコミュニケーション（理解と情報の共有）をより活発に行うことができます。

③チーム担任制では、学級間の指導の差をなくし公平化を図ることができ、学年（学年部）内の全ての児童に同じ指導を行うことができるようになります。1組でも2組でも同じ指導が行われることになり、児童にも指導内容が伝わりやすくなります。

※「指導の公平化」とは、一律に同じ指導をする平等化や均等化とは異なり、一人一人の状況に応じた指導を行い、同じ目的を達成することを目指すものです。

④チーム担任制では、児童は、相談ごとや困りごとについて相談をするチーム担任を状況に応じて選ぶことができます。困った時にためらわずに相談することで、早期の問題解決をはかることができます。固定的な学級担任制では、「担任の先生には相談しにくいけど、〇〇先生になら相談できる」という場合の対応が難しい部分がありました。児童にとって、相談する際の選択肢が広がり、いじめや不登校が深刻化することを防ぐことができます。

⑤チーム担任制では、担任団が常に連携することによって、一人一人の教員のモチベーションを引き出したり、長所や能力をさらに引き延ばしたりすることができます。また、固定的な学級担任制では、学級担任が学習指導や生活指導だけでなく、多様な教育的ニーズにも一人に対応することが基本となっていました。チーム担任制では、担任同士が有機的な連携を果たすことにより、チームとして様々な課題の解決に向かい協働して取り組むことができます。

(2) チーム担任制のデメリットについて

①チーム担任制では、担任としての責任の所在があやふやになるというデメリットもあるではありませんか

チーム担任制では、チーム担任としての意識が低いと、目の前の指導・支援が必要

な場面でも「他の担任がやるから大丈夫」と、甘い認識や指導の無責任さが生まれることも考えられます。このデメリットがあることを理解し、日頃からチーム担任全員で責任をもつことや、目の前で起きた問題を放置しないことなどを確認し、意識化を図ってまいります。このことは、「他の学級だから…」と指導をためらったり、見逃したりしてきた従来の学級担任制のデメリットに対して、チーム担任として主体的に児童に関わることができるメリットにシフトする機会であると考えています。

②従来の学級担任制の方が児童理解や児童との関係性は進むのではありませんか

従来の学級担任制のメリットを、児童理解という面でクローズアップすると、長時間、長期間、児童と関わる方が、理解や関係性が深まることは確かです。しかしながら、一人の担任が一人の目で児童を見つめることで、一面的な見方になってしまい、多面的な理解を十分に深めることができない場合があることも確かです。一人一人を公正に理解する観点からは、複数の教員が多面的・多角的に関わる方が児童理解はより深まると考えています。

一方、低・中学年の児童にとっては、特定の関係性における強いつながりや信頼関係のもとでより効果的な指導や安心感が得られる場合もあると考えており、学級担当を固定する機会が多い方が効果的であると捉えています。

このため、岩倉北小では、低・中学年はチーム担任制のメリットを生かしながら、固定的な学級担当のよさも生かすようにします。低学年では、学級を単位とした交換授業や学習グループ別授業をすすめ、中学年では、上記に加えて、教科や単元に応じた教科担当制を実施し、発達段階に応じたチーム担任団による指導をすすめます。

3 保護者との関わり

(1) 保護者が質問や連絡をしたいときはどうすればよいのか

お子様のことで相談（質問や連絡）がある場合には、電話や来校時に「〇年（〇学年）の先生をお願いします」とお声かけをいただければ、学級担当又は当該チーム担任のいずれかの教員が対応します。連絡帳の場合も、学級担当・チーム担任や、その週の学級担当教員が責任をもって対応します。また、お子様のことで相談したい際には、チーム担任や学級担当に限らず、相談したい教員をご指名ください。

(2) 個人懇談や家庭訪問等はどの先生が担当するのですか

個人懇談は、保護者がチーム担任の教員を指名することが可能です。特に希望がない場合には、学級担当が行います。なお、定期家庭訪問（年度当初）については、対面の希望制として、学級担当が訪問いたします。平時の面談・相談や家庭訪問の際には、複数のチーム担任や本校の教職員が対応する場合がありますので、ご了承ください。

(3) 担当交代期間中や担当入れ替え時の連絡は、どのようにもらえるのでしょうか

当日のできごとについては、原則、その日（その週）の学級担当が行い、週をまたいだ場合は、引き継いで連絡をします。ただし、チーム担任制ですので、当日の学級担当以外のチーム担任や平時の学級担当から連絡をさせていただく場合があります。

(4) 様々な事象に対してはどの先生が指導にあたるのですか

目の前で発生した事象に対しては、学級担当に関わらず、その事象をとらえた教員や

授業や指導に当たっている教員が、責任をもって対応し、解決を目指してチームとなって指導をすすめます。解決まで時間がかかる事象については、主として指導にあたる教員を決めて、その教員が窓口となり保護者と連携をし、担任団チームとして解決にむけて取組をすすめます。

4 学習の評価や学習状況の確認及び指導について

(1) 宿題のチェックはどの教員が行うのですか

家庭学習（宿題）のチェックについては、宿題を出したチーム担任（学級担当）や教科担任が行い返却します。担当交代期間中に出された週をまたぐ課題については、チーム担任間での引き継ぎを行います。

また、家庭学習そのものについても「児童を主語」にして、学校が決めたことをするという作業ではなく、児童が家庭でも継続して学びたいことを行ったり、児童自身が計画を立ててすすめたりする学びの場として「家庭学習」を位置付けたいと考えています。

これまでの「決められたドリルを一律で行う」ような作業的・機械的な宿題は廃止の方向を考えています。ただし、宿題がないから家庭での学習はしなくてもよいという安易な判断や行動とならないよう、学校での学びと家庭での学びの一体化を児童とともに考えていきたいと思えます。

(2) これまで学級担任がおこなってきた学習評価は、どの先生が行うのですか

高学年では、音楽・理科の専科教員による指導に加え、図工・体育・家庭・英語の4教科については、学年部で分担して指導します。国語・算数・社会・道徳、また、総合的な学習の時間については、単元ごとの交換授業やグループ別授業を積極的に取り入れて実施をします。特別活動（学校行事や学級活動、委員会活動）については、学級、学年や学年部で様々な形態で児童主体の活動をすすめます。

このため、学習状況の評価については、教科等を担当する各指導者が行います。ただし、交換授業やグループ別授業等で指導者が複数にわたる学習については、チーム担任で評価に関する会議を行い、学級担当者がとりまとめを行います。

※低・中学年の学習評価も上記に準じて行います。

(3) 通知表の成績や所見はどの先生が行うのですか

通知表の教科別評価については、教科担任が行います。複数の指導者が担当する教科については、評価会議を行いその結果を通知表に記載します。また、3学期の所見については、チーム担任で、一人一人の児童のよさを共有し、具体的なエピソードや具体物を交えて見取りを行います。その上で、学級担当が所見案を作成し、チーム担任団で再度検討し、校長に提出して、最終的なものを通知いたします。

※転校や進学等にかかわる書類、低・中学年の通知表についても同様の過程で作成をいたします。

(4) 卒業式の呼名はどの先生が行うのですか

卒業式については、座席は1組・2組の名簿順で参列し、呼名については、6年生の学級担当教員が担当学級児童の名前を呼びます。